２００５（平成１７年）２月号

カルメル

霊性センターニュース

2月号

スノードロップ（英名）
西欧では春一番に咲く花、
その清純さからマリアの花とされ
２月２日聖燭祭（マリアの清めの
日）この祭りの期間中聖母マリア像は
蝋燭の行列とともに町を練り歩き
その間祭壇にこの花が飾られていた。
　伝説・アダムとイヴが楽園追放
されたとき天使がイヴを慰めるため
降りしきる雪に息を吹き掛けたところ
その雪の落ちた所にこの花が咲き出た！
＊　花言葉・希望・慰め
＊　象徴・純粋・春の到来

NO. 196

「わたしはあなたの名を呼ぶ」

カルメル会　中川 博道

青年時代に、戦争の最中で最期に誰かの名を呼んで死んでいった人々について記事を読んだことがありました。心に深く残るものでした。以来、自分は誰の名を呼んで死んでいくのだろうと、時々思い巡らすようになりました。

人はふと気がつくと、誰かの名を口にして生きていることがあります。辛い時、喜びの時、悲しい時、痛む時、感動する時、不安に襲われる時、平和な時、恐れる時……母の名を、父の名を、妻の名を、夫の名を、子供の名を、友の名を、恋人の名を、兄弟の名を、誰かの名を呼んでいる私たちがいます。

たとえ愛し合い、お互いの名を口にできる仲にもなお、その愛する人とともに呼ぶべきお方の名を探して生きている私たちがいます。存在の深い淵の底から呼び求める名。その名を口にしたとき自分の隅々までもが存在になっていくことのできる名。

> 至るところでわたしたちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人と共に、キリスト・イエスによって聖なる者とされた人々、召されて聖なる者とされた人々へ。イエス・キリストは、この人たちとわたしたちの主であります。（1コリント1.2−3）

わたしたちは、世界にあって、今日もイエス・キリストの名を呼んで生きている数知れない多くの人々に連なって共に生きていきます。

しかし同時に、自分が、尊いお方によってかけがえのない呼び名で深く深く呼ばれているものであることを予感しています。

> 恐れるな、わたしはあなたを贖う。
> あなたはわたしのもの。
> わたしはあなたの名を呼ぶ。
> わたしの目にあなたは価高く、貴く
> わたしはあなたを愛し・・・・
> 恐れるな、わたしはあなたと共にいる。（cf. イザヤ43. 1-5）

心　の　泉

＝　講　話　＝

跣足カルメル在俗者会の会憲（６）

チプリアノ・ボンタッキョ神父

第２条

在俗者会の発足

信徒の集団の修道会への帰属はその修道会の起源に遡るものです。修道者と関わっていた信徒の中に、同じ霊性を生きようと思う人が増えるにしたがって、いわゆる第３会が次第に結成されるようになりました。カルメル会では、1300年頃からフローレンスの聖マリア修道院を中心にそういう信徒の集団が存在していたようです。他の修道院でも同じ現象が見られ、次第に信徒のそういうグループが増えてきました。

福者ヨハネ・ソレト（1394-1471)はカルメル会の総長を務めていたときに（1451-1471)これらのグループを整理して“第２会（女子カルメル会）と“第３会”とに別けて、1452年に教皇様の公の承認を得た上で、“第３会”のために最初の規則を作成しました。その中に聖母の小聖務を唱えるか、それを唱えられない会員のために一定の数の主祷文と天使祝詞を唱えることを義務づけています。また、“第３会”としては珍しいことで、二つの誓願（貞潔と従順）を取り入れました。この二つの誓願は今日まで持続されてきました。

尚、“第３会”の名称は“在俗者会”に改名されたのは第二次ヴァチカン公会議の後でした。

さて、第１条にも述べられたように、カルメル在俗者会はカルメル修道会の一部であり、同じカリスマ、同じ霊性、同じ成聖への召命、また同じ使徒的使命に参与しています。違うところは、“在俗の身分”から生ずる生活様式です。会憲のこの第２条ではカルメル在俗者会の“在俗の身分”が強調されています。“在俗者会員は…信徒についての新しい神学に照らして、在俗というはっきりした身分からこの（修道会への）参与を生きている”と書いてあります。この“新しい神学”とは、特に“教会憲章”や“信徒使徒職に関する教令”や“信徒の召命と使命”という三つの公文書に説明されたもので、“教会における信徒の位置付け、その資格、その尊厳、その召命、また聖職者との関わりと協力関係や信徒の主体性などについての神学です。尚、この神学について昨年すでに話したので、ここで省略させてもらいましょう。

第３条

この第３条では三つのことがいわれていると思います。

1)その一つは、“カルメル在俗者会員は教会の信徒である”ということです。この言葉に含まれている意味を理解するには“カトリック新教会法典”の第２０４条と２０５条を参照することになっています。

以下その内容の紹介です。

信徒は、洗礼によってキリストに合体され、神の民の一員となった者である。

信徒は、キリストの祭司職、預言職、王職の任務に預かる者として、各自の固有の立場に応じて、教会の福音宣教の使命を実践するように召された者である。

福音宣教の使命の実践を、教会との完全な交わりのうち実践されるべきものである。

教会との完全な交わりとは、信仰宣言、諸秘跡、および教会の統治の絆によって存在するものである。

2)さて、この会憲の３条に述べられている第２番目のことは、カルメル在俗者会員がどの生き方に召されているかについてです。三つのことが揚げられます。

- “「イエス・キリストへの忠誠のうちに」生きるように召されている”ということです。これは洗礼の誓いに含まれていることで、すべてのキリスト者の務めです。イエス・キリストへの全ったき従順、その指図にすみやかに従う心の準備、更に命も含めて、すべてを委ねるということ。
- テレジア的祈り、即ち“愛してくださる神との友情”というテレジアの祈りの定義にあるように、神との親しさに満ちた祈りを通してキリストへの忠誠を生きるということ。
- それぞれの可能性に応じて教会への奉仕に於いてキリストへの忠誠を生きるということ。

3)第３番目に言われていることは、カルメル在俗者会員は、洗礼のときに“立てた約束を深めようと努力する”とこの３条の最後書いてあります。その約束をどのようにして深めるかに関しては、次のことが書いてあります。“カルメル山の聖母の保護のもとに、イエスの聖テレジアと十字架の聖ヨハネのインスピレーションおよび預言者エリアについての聖書の伝承に従って”と。

詳しいことは第４条から書いてありますので、次回からのこれらのことについて述べることになりましょう。

断想（１９９）

魂の響き

くるしいことにはいりきったら
くるしさはなくただ生くることばかりだった

ゆきなれた路の
なつかしくて耐えられぬように
わたしの祈りのみちをつくりたい

みんなで　いちばんよいものをさがそう
ねうちのないものに　あくせくしない工夫をしよう

ときと
ところと
すべてはキリストへむかって
おがんでいる

八木　重吉

ヘンリ・ナーウェンの『旅路の糧』(74)

死ぬ準備ができていること

死はしばしば突然やってきます。自動車事故、飛行機の墜落、殺し合いのけんか、戦争、洪水等々。健康で力に満ちている時は、死についてあまり考えません。しかし死は、まったく思いもよらぬ時にやって来るのです。

どのようにして死の準備をすることができるのでしょうか。それは、人との関わりで何のわだかまりも残さないようにすることによってです。問題は、私が私を傷つけた人々を赦したかどうか、私が傷つけた人々から赦しを得たかどうかということにあります。私が、自分の人生の一部となっているすべての人々と平和な関係にあると感じているなら、私の死は、大きな悲しみを惹き起こすかもしれませんが、罪や怒りを惹き起こすことはないでしょう。

どの瞬間にも死ぬ準備ができているならば、私たちは、どの瞬間にも生きる準備ができているということでもあります。

（０８２７）

感謝に満ちた死

私たちが死について考える時、しばしば、死んだ後、私たちはどうなるのだろうかと考えます。けれどももっと重要なことは、後に残した人々はどうなるのだろうかと考えることです。私たちの死に方は、私たちの死の後も生き続ける人々に深い、永続的な影響を与えるからです。私たちが家族や友達に感謝しつつ別れを告げるならば、苦々しい幻滅した心で死んでいく時より、彼らが私たちのことを喜びと平和の内に思い出すことは、ずっとやさしいことになるでしょう。

私たちが家族や友達に与えることのできる最大の贈り物は、感謝という贈り物なのです。感謝は彼らを自由にし、苦さや自責の念なしに生き続けることを可能にしてくれるのです。

（０８２８）

九里（くのり）　彰訳

年間第五主日
世界に証しすること
(マタイ　5：13-16)

今日の福音でイエスは私たちに語りかけます。「あなたがたは地の塩。… 世の光。… そして山上に築かれた町。」実にとても大きな責任があります。これらのイエスの言葉は、弟子達がこの世に信仰の光をかき立てねばならないことを意味しています。それは単に外面的に掟を守って生きるというだけでは全く十分ではありません。それぞれの生活を通して、世界は神の善によって照らされなければなりません。私たちはこの世界に、命の香りをもたらさなければなりません。私たちが自ら光を生みだすのではなく、イエスご自身の輝きを反射させるのです。

私たちは地の塩であり、世の光でなければなりません。広い世界全部というわけではありませんが、私たちキリスト者は世界に対して責任があります。この“私の世界”とは、私の知っている人と私を知ってくれている人との間にあります。必ずしも名前を知らなくてもいいのです。彼らに対して塩であり光でなければなりません。食べ物の味を変える塩です。適切な割合で加えられなければなりません。多過ぎたり少なすぎたりすることで、良くも悪くもなります。光は私たちに真実を正しく見せてくれます。光は私たちに安心を与えます。闇が恐怖を生じさせるようにです。光は喜びです。人々の前にあなたがたの光を輝かせなさい。そうすれば人々はあなたのよい行いを見て、あなたではなく天の御父を誉めたたえるでしょう。

行為と迫害と間にどんなことが起こったかを考えると、私たちは信仰を隠したいとの誘惑に陥るときがあります。それをきわめて個人的な問題ととらえ、自分の信仰などは世界を変えることには無関係だと考えます。もし誘惑に負けるなら、信じるべき信仰の香りを失ってしまいます。私たちの信仰を世において見られる光としましょう。人々を導く光となりましょう。

(Beatrice)

四旬節第一主日

罪と恩寵

（マタイ　4：1-11）

ヨルダン川での洗礼のときに、イエスの息子であることが父によって証しされました。“これはわたしの愛する子、私の喜びである子。”　砂漠での誘惑者は神の子であるというその宣言をもとに試みました。“もしあなたが神の子なら…”イエスのご生涯は誘惑に満ちています。パンの奇跡の後は政治上の救世主であることに対する誘惑、驚異のしるしを求める群衆からの挑発、ゲッセマニの園での誘惑、十字架上においてさえなされた誘惑、“ユダヤ人の王よ、自らを救え…”これらの誘惑は、公生活に入られたときにだけなされたのではありません。実にイエスのご生涯の初めから終わりまで、絶えることなく誘惑は続いたのです。

人生が誘惑に絶えずもがき苦しむことであっても、何の不思議もありません。どのようにして誘惑から逃れられるでしょうか。決してたやすいことではありません。私たちには苦闘する必要があります。もがき苦しみの中に喜びがあるのは確かです。それはイエスが魂の救いを約束してくださっているからです。イエスがそれによく似たもがき苦しみの中におられたことを知るなら、信頼と希望とを抱くことができます。神への信仰が堅固となるのです。

根源的な誘惑に対していかに打ち勝たねばならないかを、イエスはすでに示しておられます。告白を行い、祈りに勤しみ、神の言葉に格別の注意を払うことで、誘惑に打ち勝つことができます。洗礼を受けたときの約束をより注意深く心にとめおく以外にも、私たちは多くの機会に恵まれています。この四旬節の期間は特にそうなのです。

(Beatrice)

四旬節第二主日

神はなおも語られる。彼に聞け。

（マタイ 17：1-9）

私が中学生だったころ、学校の祝祭行事にマザーテレサが招かれました。彼女の存在そのもの、またその言葉に私たちはくぎづけになりました。輝く光で講堂は満たされ、一人ひとりの心と魂にまでその輝きはしみわたりました。私たちが知ってのとおり、聖人は神を信じることをやさしくする人です。

山上での御変容の経験は、イエスと兄弟たちに対する一つの確約でした。それは栄光と十字架とが、ともに現実のものであったことを思い起こさせます。私たちに栄光の復活の時があり、別々であったものがすべて一つに結び付けられる時が来ます。大いなる存在にとどまりたいというあらがいがたい欲求にとらわれます。私たちには確かにこの偉大なときを生かす必要があります。イエスに完全に信頼し、この地上での欲望から解き放たれましょう。

内なる変容への呼びかけは、この四旬節においてより深い意味を持っています。山上でイエスの姿は変容し、その顔は輝き、彼においてすべてが起こったのです。このことに対する招きは、この世で目にしたいと望むものに、私たちもまた変わらなければならないということです。おそらくイエスは語りかけていることでしょう。“私の変容についてくよくよ考え過ぎずに、あなた自身の仕事にとりかかりなさい。”

時に真理への道は私たちを引きとどめるかに見えます。私たちは十分考えないで立ち止まってしまいたくなります。あるいは途中で道に迷ってしまいます。四旬節は、神が私たちに見せてくださる一つの開けた土地に立ち向かう機会となります。喧噪や破壊のうちに神を見いだすのではなく、神に捧げる祈りの最中に、隣人とのかかわりあいの中で、自らの内面の静かな深みに、神を見いだすのです。神の声を知るなら、私たちは聴きます。本当に聴くなら、私たちは従います。“さあ行きましょう。そして聴きましょう。”

（Beatrice）

四旬節第三主日

神の贈りものイエスを知ること

（ヨハネ　４：５-42）

私たちの神は、それぞれの日常生活や毎日の活動に関心をもって、個々と交わろうとなさる神です。特にヨハネの福音では、神とその民との個人的な関係が説明されています。神は水場のようなもの、一度きりではなく日に何度も何度も必要とする泉のようなものだとヨハネは説明しています。サマリアの女はイエス個人に出会いました。イエスは彼女の個人的で私的な暮らしそのものに関心を寄せました。そのとき彼女は、どこか深いところで自分自身をすみずみまで詳しく知っている人に触れられた気がしました。そしてだれかに会ってそのことを分かち合いたいと心に強く思ったのです。それからイエスについて学んだことを多くの人に伝えることになったのでした。

イエスは、自らを直接感じてもらうため、寛大さと癒しを経験するため、私たちを個人的な出会いに呼ばれます。そのとき私たちは叫ぶことができるでしょう。“もはやあなたゆえに信じたのではない。イエスが世の救い主であると自ら聞いてわかったからだ。”

“水を飲ませてほしい。”とイエスは求められます。イエスが私たちに求められるのは、それぞれの心であり、愛そのものです。私たちがこの心をイエスにさしだすなら、そのかわりに、イエスはその心を私たちにくださることでしょう。私たちに対する愛以外に、神はご自身を私たちに与えてくださいます。その返礼として神が望むたった一つのことは、精神的なものです。イエスがサマリアの女を通して語られたこと、それに対して私たちが返答するなら、そこには内的にすべてをゆだねることが含まれていなければなりません。まことの礼拝におけるこの美しい教えにサマリアの女が応じたことによって、彼女は新しい境地に伴われました。彼女が思いもよらなかったことを、イエスは余すところなく教えるに至ったのでした。“私は救い主が来られるのを知っています。…救い主がおいでになるとき、私たちにすべてを話してくださるでしょう。”

（Beatrice）

カトリック　☆★　アラカルト　★☆（１７）

カトリック司祭　嶋崎　浩樹

≪おかげさま≫

「しばらく見なかったけれども、お元気でしたか？」「ええ、おかげさまで」

このような会話は、以前はよく交わしていましたが、今では、ほとんど使われなくなり、死語に近くなってきています。この会話は、「お元気ですか？」という問いかけに対して、「神様や周りの人のお世話によって元気に過ごしています」というような意味です。つまり、自分の力だけでは生きていないということが、この「おかげさま」という言葉に含まれています。また、この「おかげさま」という言葉は、とてもキリスト教的な言葉です。キリスト教の根本は、「愛」です。「愛」というのは、他者のことをお世話すると共に、他者からもお世話になることの意味も含まれています。

もう少し、この「おかげさま」という言葉を見てみたいと思います。漢字でこの「おかげさま」を書くと「御陰様」になります。見てわかると思いますが、「陰」という言葉の前後に「御」と「様」という尊敬や丁寧を表す言葉があります。「陰」という言葉だと、暗いイメージがあり、あまり良い意味では用いられません。例えば「あの人には陰がある」というと、何かその人の内面に暗い部分があると意味になります。また「草葉の陰」というのは、死ぬということにもなります。しかし、陰の前後に「御」と「様」がつくことによって、良い意味に変わります。

ところで、この「陰」ですが、「陰」というのは、主となるものの後ろに隠れた存在です。つまり、陰というのは、けっして目立たないということです。陰が目立ってしまったらそれはもう「陰」ではなく「陽」となります。「陽」となってしまったら、それは愛ではなくなります。「愛」というのは、あくまでも他者のことを考え、思いやり、他者のペースに合わせて歩んでいくことです。ということは、けっしてこちらの方が他者よりも目立ってしまったらいけないということです。ある時には、自分の功績が評価されなかったり、無視されたりすることがあるでしょう。それにもかかわらず、わたしたちは、愛し続けていく必要があるのです。いわゆる「縁の下の力持ち」的な存在です。このような存在になることもまた大切なことです。

もう一度、この「おかげさま」という言葉を見直してみたらいかがでしょうか？陰のように他者に寄り添い、陰からその人のことを見守っていく姿勢、この変に出しゃばらない姿勢も、わたしたちには求められていることです。他者に対してどんな良いことをしたとしてもそれが余計なお世話になってしまったのでは、意味がありませんし、それでは、愛にはなりません。その意味でも、もう一度、この「おかげさま」に含まれる意味をかみしめ、大切にしていくことが今の日本人に求められるのではないでしょうか？

そして、この「おかげさま」という言葉を死語にするのではなく、これからも使い続けていくことが大切なように思います。それも、ただ儀礼的にではなく、心の底から誰かのお世話（神様、他の人々、被造物）になっていることを感謝し、気づいていくことができたら、この世の中に「神の国」が実現していくことでしょう。

URL:http://www.geocities.jp/hs_ocd/　e-mail:pax@inter7.jp

左手さん

数日前から、何かをすると左手の肩から手首にかけて、奇妙な痛みが走るのを感じていました。大したことはない　と高を括っていたのですが、実際はそうではなく、痛みは次第に悪化して、就寝してからもズキズキと痛み、熟睡できない夜が数日続きました。このことは同時に、生活線にも多大の影響を及ぼしました。

① 食事の際　、お茶碗は卓上に置き、左手指先で固定して、右手にお箸をもって、口を近づけて食べる。お吸い物椀は、ガキ小僧のように、右手だけで掴んですする。

② 洗顔は、猫のように右手で何度か水を掬い上げて、顔を動かして洗う。

③ 髪の毛をたばねたくとも、左手は廻らないので、極度に右手を「ぐるり」と廻して左手の指先だけ借りながら、何とか結び終える。

④ 背中のボタンがかからない。今までなら、オートマテイックといっていい程、左手が走り寄り、右手に協力してくれたのに……

⑤ 殆どのことは全部右手で。片手だけで出来ないときは何とか左手さんに頼むが、“指先だけ”と限定されてしまう。

要するに肩なのか、どこなのかわからないが、力とか重力がかかると、飛び上がる程痛いのです。いわゆる五十肩とか……

こんな格闘が長引いてくると、“早く良くならないかなあ。左手を無意識にかばってしまうだけでも、力が入って疲れてしまうのに。”すべてがメンドウクサクなって、ただじっと椅子にでも腰掛けていられたらいいな、と思う日もありました。

そんな時、私の心を　フッとよぎったことがありました。そしてそれは、心の中に　どんどん拡がっていきました。それというのは、今まで手を動かす時に、右と左がどんな割合で動き、どんな関係をとりあっていたか、など、考えてもみなかったことが浮き上がってきたのです。私は右利きですので、殆どのことは、右が主体となり、左は添え手が多かったのでは……ということでした。

右手の働きは立派だが、左手の存在がなければ十分に働けもせず、威力が発揮できない。ああ、ほんとうにそうなんだ。陰の存在でありながら、控えめに右手を支える偉大な力。私は、今まで手で何かをする時、あるいは出来上がった時、こんなに左手さんの存在を意識したことがありませんでした。控えめに右手を支えて、一つ一つのコトを仕上げていく。そこには、こんな縁の下の偉大な存在があ

ったのでした。

その時、私の心の中にひらめきが走ったのです。それは「マリアの存在」でした。大きくいえば、マリアのかげの支えによる「イエス・キリストの救いの完成について」でした。

マリアとイエスの関係は、「人間と神」の範疇の違いですから、到底比較できるようなものではありませんが、父なる神は、もし純粋に神だけの一人舞台で“救い”を完成されるなら、とても人間がついていけないので、人間マリアが選ばれて“救いのみ業”を完成されたのでした。

ですからマリアが聖書の中に登場されるのは、ごく少ない場面です。

例えば　受胎告知、イエスの誕生、イエスの奉献、神殿でのイエスとの出会い、
そしてズーツと飛んで最後の十字架の下でのイエスとの出会い、
そしてその後は、……
マリアが亡くなって天に挙げられたという記事は、聖書にはありません。
それで教会は、今から数十年前にマリアの被昇天の祭日を決定したのでした。

私の左手さん、相変わらず痛く存在を意識させてくれますが、今まで“当たり前”の隠れ蓑の中に隠れていましたね。しかしこの左手さんの存在は、私にとって、神の栄光のうちに生きようとする“いのち”の道具の一つとして、大切な大切な役割を担っていることに気付かせてくれたのです。

Ｓｒ.熊田　照子（お告げのフランシスコ姉妹会）

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

7. アヴィラのイエスの聖テレジア（1515－1582）――その4

アウマダのテレサ・デ・セペダは、1515年、スペインのアヴィラに生まれた。彼女は、最も高度な神秘的恵みを受けた真の観想者であった。彼女は師であり、その数々の著作は、現在にいたるまで霊感の源となっている。それらに匹敵するものはなく、彼女は教会博士の称号を受けている。『完徳の道』は、祈ることを教えるため、彼女に従う修道女たちのために書かれた指南書である。先の時代の聖人たちの祈りとは異なり、テレジアの祈りは、時々取り留めない状態になり、別の方向へと向かっていった。彼女の祈りに、他の考えが混じっているのはそのためである。あらゆる物事は愛するお方へと向かい、祈りはすべての物事の一部分である。テレジアは、1582年10月4日にこの世を去り、教会は10月15日に彼女の記念を執り行っている。

―― 祈り ――

『完徳の道』より

おお、主よ、すべての悪は、私たちがあなたの上に眼を注いでいないことから来るということはなんと真実なのでしょう。もし、道のほかに何も見ないなら、すぐに着くことでしょう。それなのに、私たちは数え切れないほど何度も転び、障害に出会い、先に言ったように真の道に目を注いでいないために、道に迷うのです。私たちが一度もその道を歩いたことがないのだと思われてもよいほど、私たちにとって目新しい道のように思われます。それは、時に起こることであり、本当に残念なことです。（１６：１１）

おお、私の主よ、誰が、この生ける水にすっかり浸されて死んでしまうことができるのでしょう！でも、そんなことが起こり得るのでしょうか。（１９：８）

おお、世界の主よ、私の真の花婿よ。……私の主よ、私の愛よ、私のような貧しい者がお供することを望まれるほど、あなたは必要に事欠いておられるのでしょうか。私は、あなたのご表情から、あなたが私に慰められておられるのがわかります。天使たちがあなたを置き去りにし、御父さえもあなたを慰めてくださらないというのはどういうことでしょうか。主よ、もし、あなたが

私のためにすべてを耐え忍びたいと望まれるということが真実なのでしたら、私があなたのために苦しんでいるこのことが、何だというのでしょう。私は何について不満を言っているのでしょう。私は、もうすでに恥ずかしいと思っております。あなたがこのような状態におられるのを見ているのですから。主よ、私は苦しむことを望みます。私にやってくるすべての試練を受け入れ、それらが、何らかのことにおいてあなたに倣うようにさせてくれる大きな善であると考えることを望みます。主よ、共に歩みましょう。あなたが行かれるところにはどこへでも、私は行きます。あなたが苦しまれることはすべて、私も苦しみます。（２６：６）

私の主よ、あなたは、「主の祈り」を「父よ、私たちにふさわしいものをお与えください」という言葉にまとめてしまうことは、おできにならなかったのでしょうか。すべてを本当によく理解しておられるお方に、それ以外のことを言う必要はなかったように思われます。

おお、永遠の知恵よ！　あなたとあなたの御父との間では、この言葉だけで十分でした。ゲツセマネの園でなさったあなたの嘆願は、このようなものでした。あなたは、ご自身の望みと恐れを表されましたが、それらを御父のみ旨におゆだねになりました。けれども、私の主よ、あなたは私たちをご存じでいらっしゃいます。私たちが、あなたほど、御父のみ旨にすべてをゆだねきっていないことを。私たちが、自分の願っていることが本当に私たちのために良いことであるかを少し考えてみて、もしそうでないならお願いしないようにするために、それらの具体的なお願いをすることが必要であるということを、あなたはご存じだったのです。私たちはこのような者ですから、望んでいるものが与えられなければ、主が与えてくださるものを、自分の持っているこの自由意志によって、受け取ろうとしないかもしれません。主が下さるものはより良いものであるのに、私たちはこの上なく豊かになるとは考えないのです。なぜなら、私たちはすぐに自分の手の中にお金があるのを見るわけではありませんから。（３０：１－２）

イエスの聖テレジア

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ http://www.ignatius.com) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

（注）タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは烏に命じて、そこであなたを養わせる（Ｉ列 17:3-4）」ということばに由来しています。

（浜田裕子訳・編）

いのちの言葉

２００５年1月

キリスト、教会の唯一の土台。
（一コリント３·１１参照）

パウロは、紀元五十年にコリントの町に到着しました。コリントは、重要な商業港として知られ、多くの思想学派を抱えた活気あるギリシャの大都市でした。この地でパウロは二年半福音をのべ伝え、生き生きとした大きなキリスト者共同体の基盤を作りました。その後は、他の人々が引き継いで福音宣教を続けたのですが、新しいキリスト者たちは、キリスト自身よりも、キリストのメッセージを伝える人の方に執着してしまう危険がありました。こうして、「私はパウロにつく」と言う人々もいれば、他の使徒を好んで「私はアポロにつく」「私はペトロに」などと言う人々も出てきて、いくつかの派に分かれてしまったのです。

こうした分裂により動揺するキリスト者共同体に対して、パウロは、教会を一つの建物・神殿にたとえ、建設に携わる人は多くても、土台となる生きた石はただ一つ、イエス・キリストであると、力強く語っています。

諸キリスト教会や共同体は、キリストが自分たちの唯一の土台であることを、特に今月のキリスト教一致祈祷（きとう）週間の中で、共に思い起こします。キリストの教えを自らのものとし、唯一の福音を生きることによってこそ、諸教会の間には目に見える満ち満ちた一致が実現するのだと、共に思い起こすのです。

キリスト、教会の唯一の土台。

キリストを土台として生活を築くとは、キリストと一体になるということです。それは、キリストのように考え、キリストのように望み、キリストのように生きることを意味します。

しかしキリストを土台とし、彼に根付いて生きるには、どうすればいいでしょうか。どうすればキリストと一体になれるのでしょう。

福音を実践することによってです。

イエスは神のみ言葉、み言葉が受肉された方です。み言葉が人となられたのがイエスならば、私たちも、神のみ言葉で自分の生活全体を築いていく時初めて、真のキリスト者であると言えるでしょう。

私たちがイエスの言葉を生きるなら、いえむしろ、“み言葉が私たちを生き”、私たちを「生きたみ言葉そのもの」にしてくれるなら、私たちは本当にイエスに近づき、イエスと一体になれるでしょう。私が生きる、私たちが生きる、というのではなく、み言葉が皆の中で生きるようになるのです。そして、私たちがこのように生きるなら、全キリスト者の一致の実現に貢献することになるでしょう。

肉体は生命を維持するために、呼吸をします。同様に、魂は生きていくために、み言葉を生きるのです。

このような生き方がもたらす最初の実りの一つは、イエスが私たちの内に、また私たちの間にお生まれになることです。これによって、私たちの考え方も変えられていき、だれかと接したり、さまざまな状況や社会を前にする時も、私たちの心には、キリストと同じ思いが注がれます。これはアジア人、ヨーロッパ人、オーストラリア人、アメリカ人、アフリカ人などの区別なく、だれにでも言えることでしょう。

私の最初の仲間の一人ジュリオ・マルケージも、これを経験しました。彼は、ある大企業でエンジニアとして働いた後、ローマの有名な会社の社長を務めた人ですが、仕事をはじめとするさまざまな社会分野で多くの経験を積んだ末、次のような悲しい結論に達しました。人間はどこでも自己本位な目的のために行動している、だから、こ

の世に幸福は存在しない、と。

しかしある日のこと、彼は「いのちの言葉」を実践する人たちに出会い、自分の内面も周囲も、すべてが変わるのを感じました。福音を生き始めることで、彼も心に充実感と喜びを感じるようになったのです。ある時、彼はこう書いています。「私は、『いのちの言葉』が普遍的なものであるのを経験しました。私の内には真の革命が起こり、神との関係や隣人との関係はすべて変わりました。隣人が皆、自分の兄弟姉妹のように感じられ、以前から知っている人という気がしました。また、私に対する神の愛も経験しました。祈りの中で、神の愛を強く感じたのです。み言葉を生きることで、私は自由になりました！」と。

人生の最後の数年間、車椅子生活を余儀なくされた時も、彼の確信は変わることがありませんでした。

そうです。私たちはみ言葉を生きる時、さまざまな人間的条件から自由になり、喜びと平和、光に満たされ、シンプルになり、充実感を体験します。み言葉を生きるなら、み言葉は私たちをキリストと一つにし、少しずつ私たちをもう一人のキリストに変えてくれます。

キリスト、教会の唯一の土台。

さて、すべてのみ言葉が要約される一つのみ言葉があります。それは「愛する」こと、神を愛し、隣人を愛することです。ここには「律法全体と預言者」[1]が含まれる、とイエスは言っておられます。

み言葉は、人間の言葉で表現され、一つひとつ異なっていますが、すべて「神の言葉」です。そして、神は愛でおられますから、すべてのみ言葉も、愛です。

では、今月はどのように生きればいいでしょうか。「教会の唯一の土台」であるキリストと一つになるには、どうすればいいでしょう。イエスが教えてくださったように愛し合うことです。

聖アウグスチヌスは「愛しなさい。それから何でも思うままにしなさい」と言いましたが、これは、福音を生きる時の規則を、ひとことで表現していると言えるでしょう。私たちは、愛する時には過ちを犯さず、完全に神のみ旨を成就することができるからです。

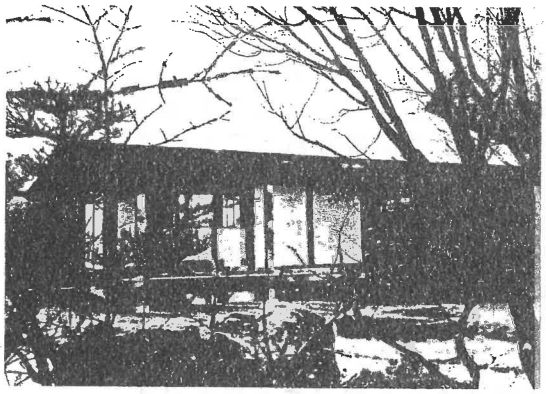
キアラ・ルービック

★いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

年末が近づき、やっておかなければならないことがたくさんあって、何となく心が落ち着かない毎日が続いていました。祈っていても、神様との一致をあまり感じられず、まわりの人との関係においても、相手をありのまま受け入れることが難しくて、色々なことが負担になっていました。でも、「たとえ気持ちがついてこなくても、神様は、私が愛し続けるよう望んでおられる」とも感じていたので、小さな愛の行いから始めようと思いました。先のことを心配せず、今できることに集中して、家事を一つ一つ心を込めてしたり、先伸ばしにしていた銀行や郵便局の用事を済ませたり、友達にクリスマスプレゼントを準備したり、また誰かと会う時にはよく相手の話を聞くよう努めました。古い自分と戦いながら、やりなおしの毎日ですが、それでも、やはり愛する時にこそ、本当の喜びを味わうことができるのを経験しています。（K）

フォコラーレ
連絡先:03-3332-8460/03-3399-5508
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
いのちの言葉のホームページ
http://www.geocities.jp/focolarejapan

[1] マタイ２２・４０参照



真命山

ニュース レター2004年

真命山創立17周年を記念するこの日、いつものように、ご降誕祭のお祝いと新春のお喜びを申し上げるためこの書面をしたためています。また、この機会に、わたくしたちの近況をあわせてご報告申し上げます。

今年も沢山の方々がお越しくださり、とてもうれしくお迎えしました。個人的なご来訪や会合、黙想会、勉強会といろいろなかたちでお見えでした。毎月の黙想会にお出でくださった方々のほかに、とくに、旅するお坊様としてロシアで12年も生活しておられる日本山妙法寺の寺沢師とそのご一行9人の若い方々が思い出されます。ご一行は、ウクライナ、チェチェン、キルギの仏教とイスラムの方々でした。

その平和の旅は、ロシアから日本までアジア大陸を越えるものでした。そして、四月と五月の二回にわたってここを訪問してくださいましたので、ご一行と一緒に、伊万里の真宗西念寺の井手恵師を五月二十一日にお訪ねしました。西念寺の井手先生は、御始祖様親鸞聖人の御誕生会には毎年私たちを招いてくださいます。ですから、寺沢先生のご一行をお迎えしたよい機会をとらえて、西念寺で行われた諸宗教者の集会と祈りにあずかりました。西念寺での集会の様子は地方新聞とテレビに報道されました。また、キリスト教と仏教の対話グループ、わたくしたちの友人である「明の星」(イタリア国ローディ市)の皆様をとくに思い起こします。マゾッキ神父様と仏教僧ジゾー・フォルツァーニ師がグループを引率して日本を訪問され、その途中で真命山にも数日間滞在されました。

今年の来訪者の中には台風も数多く、台風は実に5回も上陸しました。第18号はとくに乱暴でした。9月17日に吹きすさび、最近もまだ、大工さんたちが修復作業をしています！

そのほかにも多くの接触がありましたが、特に熊本の諸宗教対話グループとの生活と行動参加は、12年目を迎えました。上村様のいつも変わらぬ貴重なご協力には、いつも感謝しています。

今年は、その他、菊池の聖護寺(曹洞宗)の皆様方との連絡が叶い、また熊本にあるイスラムの小さなグループとの連絡も、はじめて、できました。 イスラムの方々とは、二回にわたり出会いの場を設けました。

フランコ神父、寺沢師、井手師（中央）、sr. マリア、

一度は、お互いに知り合うため、二度目はそのグループを代表する若い方々の話を聞きました。（皆さんは、大学の研究者もしくは学生でした）

その方々のうち何人かは、その後、真命山で二年ごとに開催される諸宗教者による平和の祈りの会に対話グループの仲間として参加してくださいました。

2004年10月3日。平和の祈りの参加者。屋外で祈りのとき。

今年は、10月3日に開催され、宗旨がことなる10宗教団体のご参加がありました。特に天理教の代表者もはじめてご参加くださいました。

今年は、そのほかにも活動がありました。そのうち：

1. 第二回 カトリック神学者会議を企画実施しました。諸宗教対話と諸宗教の神学がテーマとして選ばれました。

会議は聖ザベリオ宣教会インドネシア管区が会場を寛大に提供してくださり、インドネシアのパダンで9月12日から18日にかけて実施し、十カ国から18人の神学者が集まりました。

2. 日本で活動している宣教会と修道会の有志で結成している「かけ橋」グループの会合を二回開きました。会合は、特にこの会の副会長兼書記を勤めるシスターマリア・デ・ジョルジが準備し進行しました。

3. わたしたちは、日本カトリック司教協議会の下に再結成される諸宗教対話委員会のメンバーにフランコ・ソットコルノラ神父、シスターマリア・デ・ジョルジ、また諸宗教対話と真命山活動にいろいろと協力してくださる園田善昭神父の三名が加えられたことをとても名誉に感じています。

このような種々多くの活動は、いろいろ方々のご協力があってできたことです。とくにスピノラ修道女会のシスター小沢泉子は一年間わたくしたちとともに働いてくださいました。同じく、コンベンツアル聖フランシスコ修道会の長尾志願者も7ヶ月間わたしたちとともに働いてくださいました。

愛する友人であるすべての方々に心からクリスマスのお喜びと新年のお祝いを申し上げます。イエス・キリストがくださった平和がすべての人々に受け入れられますようにともに祈りましょう。

平成16年11月23日

フランコ　神父
真命山一同

真命山 諸宗教対話・霊性交流センター
〒865-0133　熊本県玉名郡菊水町蜻浦 1391-7
☎ 0968.85.3100; Fax 0968.85.3186; e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

嘆きの歌

蛭田　幼一

今日も外出から帰ってどっと腰を下ろす。頭を垂れて息を吐く。
僕の中の、可哀想な人のつぶやきが聞こえる。―きみは聞く
耳を持っている？　持っているなら聞いてごらんよ。―乱れ
た心が澄んでくる。徐徐に落ち着きが戻ってくる。（友よ、慰
めどころか癒しをも求めないのは大した心だ。）可哀想な人が
つぶやくように歌っている。僕は耳を傾ける、頭を上げて。ど
れ、僕も歌ってみようか、何か嘆きの一節を。

＊「ＤＯＩＮＧの文化」と「ＢＥＩＮＧの文化」＊

わたしは、この二つの言葉の意味合いの違いに、関心を持っています。

「ＤＯＩＮＧの文化」とは、多くの場合、何かを目に見える形で具体的にすること。「ＢＥＩＮＧの文化」とは、多くの場合、あまり目立たないような形で、ただ「存在する」「居る」ということ。

「ＤＯＩＮＧの文化」、すなわち、「何かをする」ということが、世間では、割合に評価されていると思います。でも、そこでは、大事なことが忘れられているのではないかという気もします。

誰かの役に立ちたくて、そのために、自分に出来ることは何でもやってみる「ＤＯＩＮＧ」の生き方は、積極的で素晴らしいと思います。でも、そのことによってのみ、自分が今生きているという存在価値を確かめるのなら、どこかで無理が生じると思います。というのも、自分で何か素晴らしいことをしようとしても失敗する時や、誰の役にも立てない自分がいやになる時が、いつかは必ず訪れるからです。そんな時、「自分は生きる値打ちのない人間だ」とそう思ってしまう人は多いでしょう。それは、間違いだと思います。ＤＯＩＮＧの文化の限界がそこにあると思います。

ＢＥＩＮＧの文化では、役に立とうと立つまいと、無力であろうと、「今そこに居る」ということが、重要になると思います。「ただ自分が今ここに居る」ということに、無条件に無限の価値を見出すことが出来たのなら、他者の存在に対しても、無条件に無限の尊さを見出すことが出来るのではないでしょうか？相手が誰であっても・・・。

人間は、何かが出来るから尊いのではないと思います。
たとえ、何も出来なくても、ただ存在するだけで無条件に尊いのだと思います。

ＢＥＩＮＧ・・・ただそこに神と共に在ることが、祈りの礎（いしずえ）ではないでしょうか。　　丸山知佳子

イエスは招待してくれた人に言われた。
「昼食や夕食に、友人、兄弟、親戚、近所の金持ちを招待してはいけない。彼らはあなたを招待してお返しをするかもしれないからだ。宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、身体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招待しなさい。そうすれば、彼らはお返しが出来ないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活する時、あなたは報われる。」ルカ１４．１２－１４

宴会を催すとは何だろう。神様と私との親しい交わりの中に、他の人も招くことではないだろうか。なぜ他者を招くか？ほかならぬ主がそれを望んでおられるから。

では、イエスがここでいわれる「貧しい人」とは、具体的にどういう人だろうか。少なくとも、ガリラヤ湖畔で「貧しい人は幸い」と言われたあの「貧しさ」とはがらりと趣が異なる。ここで言及する「貧しい人」は、食事に招待したお返しをしない人、しかし、それは、何も、経済的に余裕がなくて、というのではない。むしろ、精神的に、人の親切に恩義を感じない状態のことを言われておられる。その貧しい人は、心の余裕がない状態なのかもしれない。様々な心配りをその人にしてみたが、心は硬く閉じられ、ありがとうの一言もなく、むしろ、してくれて当然！とすら思っているらしい…。

「身体の不自由な人」　身体は硬直状態になっている。なぜか？心が硬直しているから。つまり、自分の考えこそ正しく、最高のものである、と過信しているから。私は今までこのやり方でずうっとやってきた。だから人生において成功を勝ち取ってきた。だからこれでいいんだ！余計な口をはさむな！心から自分に自信がある人なら、他の考え、見方に対して聞く耳もあるだろう。頑なに自分の正しさに固執し、人の意見を聞かない場合は、むしろ、心の奥に自分を防衛しなければならない必然性があるからだ。いずれにしろ、自分の慣れ親しんできた価値観、文化、慣習、友人、仲間等の中に異分子、新参者が入ってくるのを好まず、入ってきても心を開かない人。

「足の不自由な人」　聖書のことばというのは、ひとつのことばに実に様々な意味がこめられている。そして、そのことばの意味を文字どおりに解釈すると、却って意味がわからなくなる。この「足」ということばもとても厄介。ここでの「足」とは、私たちの肉体のこと。足の不自由な人とは、つまり、頭でっかちで、理性で、精神力で自分の肉体を抑制できると思っている人。しかし、まじめで実直な大学教授がふとしたできごころで、電車で痴漢行為を働いた、大人しい小心者が幼女誘拐をした、女性の下着ドロを働いた、あるいは教師が、警官が、とこの手の例には枚挙に暇がない。つまり、人間の本能とは、心

とはどういうものか、という実態を直視せず、自分の理性で欲望などコントロールできると過信している人のことだ。

「目の見えない人」　この目とは心の目のことだ。私たちがもっている、肉眼のことではない。むしろ、人間の目に見えるものにしか価値を置かない人のこと。健康、家族、お金、肩書き、地位、権力、容貌、スタイル、ブランド物、世間での評判、人から見た自分、等々。

こういう、信仰に縁の薄い人たちを、神と私との親しい交わりの中に招きなさいと主は言われているのだ。しかし、どのように…？正直言って、ここで言及している人たちは、社会的（世俗的）に見て、私より、地位も立場も、才能も経験もずっと上の人なのだ。しがない私は、むしろ彼らに軽蔑され、－「宗教？私は宗教を信じなければならないほど精神的に弱い人間じゃありません！」とぴしゃっと言われたり、言外に、宗教を信じるような者ではなく、もっと理性的な人間だと臭わせられたりするのがオチである。

祈ることの大切さを訴えても、そんな時間の使い方をするより、仕事の肥やしになるような勉学や、技術、知識の習得の知識の習得に励め、と逆に説教される始末。今日日、日本経済の状況は厳しい、そんなことは、もっと経済的にゆとりがある人がすることだ、われわれは霞を食っては生きていけない。そうだね、現役を退いて、精神的にも、経済的にもゆとりが出来たら、多少聖書でも紐解いてみようか。

友人、知人との会話でキリスト教の話が多少なりとも話題に上った時、こんな反応が返ってきた経験をお持ちではないだろうか。この頃、信徒の宣教ということが言われたりする。しかし、残念ながら、それは絵に描いた餅のようで全く具体性に欠ける。掛け声だけが宙に浮いて漂い、そして消えていく。なるほど、効率主義の会社や社会のただなかでキリスト教徒として生きるのはつらい。親しい友人との間にも、信者でなければ、この話題となると溝を感じる。そんな、一週間分の寂しさや、心の痛みを抱えて日曜のミサにやってくる訳だから、ご聖体をいただくだけでなく、同じ信仰を持つ者同士慰め、励まし、支えあいたい。ところが、日曜日の教会というのは、とても忙しい。様々な組織の様々な集まり、会議、活動…。あるいは、各信徒側の都合で、急いで家に戻らなければならなかったりする。教会の中ですら、あわだたしく、ひとりで信仰を守り抜くつらさ、寂しさをうめられないまま、また社会や、家族のただ中に帰っていく。

繰り返して言う。宴会とは、神と私との親しい交わりのことだと。三位一体の神との親しい交わりに、この、しがない私が入れていただくには、それ相応の入念な準備が必要である。そのための第一歩は、この、常に追いたてられている時間の流れという横軸の中で、

意識的に立ち止まり、垂直軸に（つまり神に向かって）意識を向けていく必要がある。今していた何らかの作業、娯楽（テレビ、ラジオ、音楽、その他）、あるいは友人との、携帯による途切れることのないおしゃべりを止めて、静寂の雰囲気を作らなければならない。その中で、「主よ、お話ください、しもべは聞いております。」の心の姿勢をつくっていく。その作業は、孤独と静寂の中にひとりとどまる訳だから、慣れるまではかなり苦痛かも知れない。ああ、こんなこと、何になる？もっと生産的なことや、目に見える活動に没頭したほうがずっとよいのではないか？私は間違った方向に行っているのではないか？等等。

いずれにせよ、先に述べた「目が見えない人」や「身体が不自由な人」とかかわる時、その高飛車な態度や、傲慢な物言いに傷つくかもしれない。もしかしたら、けんか腰に責めてくるかもしれない。あるいは慇懃無礼かもしれない。あるいは自分の価値観に固執し、私にはレッテルを貼り息の根の止めるまで容赦しないかも知れない。それらの不愉快さを真正面から受け止めたとき、この私はとても傷つく。感受性は動揺する。しかし、その攻撃を自分ひとりで受け止めるべきではない。この時こそ主と共にとどまる必要があるのだ。

ああ、もうだめだ、どうして私は、こんなどうしようもない人に、無抵抗に、－本当は馬鹿やろう！と罵倒してやりたい－しているんだろうと、非常な不快感に圧倒される。自分自身が死滅していくようなこの時、私に向かって罵詈雑言を浴びせている相手が、ことばとは裏腹に、その腹底であげている悲鳴を聞くのである。助けてくれ、助けてくれ、本当はあなたに救ってもらいたいんだ！いや、あなたのなかにおられるイエスに救ってほしいんだ・・・そしてまた、一方で、攻撃されている私は、自分の弱さ、卑怯さ、ずるさ、どうしようもなさも見るのである。

この状態の時、全く明かりは見えない。絶望的な惨めさの中にとどまるしかない。もしかしたら、常に差し出されていたイエスの右の手すら、この大嵐にとらわれて離してしまった状態かもしれない。そこにとどまる・・・。不思議にも、この時、ぼんやりとかもしれないが感知するはずだ。十字架上で亡くなり、墓に収められたイエスの復活をたったひとりで信じぬいている聖土曜日の聖母の存在を。

全く解決の糸口が見えない暗闇にどれぐらいとどまっただろうか？突然状況が急変する。驚くほどだ！それは、全く予想もしていなかった第三者からの助けであったり、攻撃した相手の心変わりであったり、自分の中に突然相手を許そうという気持ちが生じたり、様々である。イエスの力が十全に働かれるとき、人間関係は、自分の小さい頭をあれこれ働かせて表面を取り繕う「私」レベルとは比較しようもない豊かな展開がある。宴会に招いて報われるとはこういうことではないだろうか。

（文責：加藤幸子）

カルメル会の出版物のご案内

雑誌「カルメル」No.314（2004年秋号）

「今日の霊性」

祈り（8）…チプリアノ・ボンタッキョ
十字架の聖ヨハネのとらえた「自由と解放」（3）　…九里　彰
カルメルの馨り（1）　ーカルメル日本宣教の根底史（1562－1951）　…大瀬高司
イエズス　私の最愛のお方　思い出してください(12)　…ペトロ・アロイジオ
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(6) …伊従信子
神の訪れ、喜びの輪の誕生　…高橋重幸
三位一体のエリザベット(7)　ー愛に生きる …伊従信子
巡礼者　ー心の旅　…ユージン・マッカーフリー
ガラスの心と柔らかな心と　…森　みさ
出会いー修道生活きのうきょうー(8) …奥村一郎

雑誌「カルメル」No. 315（2004年冬号）

「今日の霊性」

聖体　ーキリストの過越の神秘（最終回）　…高橋重幸
姦通の女に対する「イエスのまなざし」　…九里　彰
祈り（9）　…チプリアーノ・ボンタッキョ
カルメルの馨り（2）ー卒啄不同時　カルメルの知られざる日本宣教　…大瀬高司
イエズス　私の最愛のお方　思い出してください（13）　…ペトロ・アロイジオ
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(7) ー人々の渇きに応えて　…伊従信子
祈りに関する一考察　…シスター・ベアトリス
三位一体のエリザベット(8)　ーキリストの苦しみを身におびる　…伊従信子
仏教者の作品に見られるキリスト教　ー『歎異抄』　…谷口正子
出会いー修道生活きのうきょうー(9) …奥村一郎

＊年５冊（春夏秋冬号＋特集号）会員頒布価格：3000円（送料込み）
郵便振替：００１９０－４－１９５４５７
跣足カルメル修道会
（どなたでもご購入できます。電話でのご連絡は、事務担当竹田：℡03（5706）8356迄。）

「カリットへの旅　ーカルメル会の歴史」
P・T・ロアバック著、女子カルメル会訳、男子カルメル会監修、2003年、サンパウロ、定価（本体2500円＋税）。

「十字架の聖ヨハネ詩集」
ルシアン・マリー編集、西宮女子カルメル会訳注、2003年、新世社、定価（本体2000円＋税）。

K.リーゼンフーバー著　**知解を求める信仰**　ドン・ボスコ社

B5　160ページ　定価735円

本書は、信じることと生きることを関連づけることを通して、信仰を理解へともたらせようとするものである。人間の日常的、また本来的なあり方から出発して、聖書の解釈と哲学的人間論を組み合わせながら、人間の存在から生まれる問いを信仰の真理に向かって展開している。

24の短い章は、人生の意義への追求を中心にして、まず、超越に対する人間精神の開き、神の経験と理解を取り上げる。次に、キリストの生涯と活動の示す所を探究する。さらに、キリストの秘儀を信仰と希望のうちに受け入れ、愛をもって生涯に生かす道を捜している。

各章は、おのおの完結し、各人の関心に応じてどのテーマからも読み始めることが可能であるが、全体は一貫した歩みとなり、キリスト教の基本的な諸真理を通して成熟した自己理解へと導く。

わかりやすい文体で、要理研究や読書会の材料としても適している。

カルメル会の企画案内

東　京

カルメル修道会　と　聖テレジア修道院（黙想）

2005年1月～12月までの黙想会予定表

1.　聖　書　深　読　（毎回土曜日　夕食～日曜日　１６時）

'05/３月１９日～２０日・・・・奥村一郎師
４月２３日～２４日・・・カルメル会士
６月　４日～　５日・・・カルメル会士
１０月２２日～２３日・・・カルメル会士
１２月１７日～１８日・・・カルメル会士

2.　奉献生活者のための黙想会

'05/７月２８日（木）１６時～８月６日（土）朝
８月１２日（金）１６時～２１日（日）朝
１２月２７日（火）１６時～'06/１月５日（木）

3.　カルメルの聖人を見つめ霊性を深める

（毎回水曜日　１０時～１６時）・・・九里彰師
Ａ・・・大聖テレジア　　Ｂ・・・十字架の聖ヨハネ

２月２３日　　３月２３日

注：□　で囲んだひにちは以前と変更になりましたのでご注意ください。

以下 '０５年４月より毎回金曜日に変更（金　曜　黙　想　会）

Ａ・・・大聖テレジア	Ｂ・・・十字架の聖ヨハネ
４月　８日	５月１３日
６月１０日	７月　８日
１０月　７日	１１月１１日
１２月　９日	06/１月２０日
'06/２月１０日	３月１０日

4.　青年男女黙想会・・・九里彰師・神学生

'05/　５月２１日（土）16時～２２（日）１６時
１１月１９日（土）１６時～２０日（日）１６時

東　京

5.　大祭日のミサにあずかるために

復　活　祭　'05/　3月26日（土）夕食～27日（日）朝食

以上、チェックイン午後3時から。（講話なし）　チェックアウト午前10時まで

聖週間を黙想する　'05/　3月24日（木）夕食～27日（日）朝食

（講話はありませんが木、金、土といつからでも参加でき、食事もご用意します）

6.　特　別　黙　想　会　　伊　従　信　子（N.D.V）

（夕食は済ませてご参加ください。）

①　05/5月27日（金）午後8時～29日（日）午後3時

②　　10月28日（金）午後8時～30日（日）午後3時

7.　召　命　黙　想　会　　カルメル会士

（夕食は済ませてご参加ください。）

11月4日（金）午後8時～6日（日）午後3時

＊　電話でのお問い合わせは　午前9時～午後4時45分までにお願いします。
また、お申し込みは電話でもお受けいたしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願いします。（お返事は致します）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
聖テレジア修道院（黙想）担当　br 原
TEL　03-5706-7355
FAX　03-3704-1764
Eメール　mokusou@carmel-monastery.jp

東京カルメル在俗者会黙想　　場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

'05／　6月16日（木）～19日（日）　　チプリアノ師
　　8月24日（水）～27日（土）　　アロイジオ師
　　9月29日（木）～10月2日（日）　九里　彰師
　　10月13日（木）～16日（日）　　未　　定

空きがある場合には、一般の方でも参加可能です。

TEL/FAX　03-3892-1378　阿部昌子

東　京

カルメルの霊性研究クラス

＊　**十字架の聖ヨハネ:『暗夜』**
　２月９日、３月９日、３月３０日。
（２月９日は、第１部第１３章～１４章を読む予定です。）

＊　**アヴィラの聖テレジア:『自叙伝』**
　２月２日、２月２４日（木）、３月２３日。
（**２月２日は、第３６章を読みます。**
なお、「２月２日と３月２３日は映画」と先月号でお知らせしましたが、『自叙伝』を読み終えた後にすることにいたしました。ご了承ください。）

どちらも水曜日夜７：００より８：３０まで、上野毛教会信徒会館２階２６号室でおこなわれます。時々、都合により曜日を変えますので、ご注意ください。

祈りの集い

２月２５日、３月１８日。
毎月一回金曜日の夜７：００より、上野毛聖テレジア修道院（黙想）小聖堂にて。都合の悪い場合は上野毛教会信徒会館ホールでおこなわれます。何の準備も要りません。
７：００～８：００　み言葉と念祷
８：００～８：３０　分かち合い

[霊性研究クラス][祈りの集い]、いずれも申し込みは不要です。不定期の参加も可能ですが、「カルメルの霊性研究クラス」の方は、なるべく継続して出席されることが望まれます。

担当：九里（くのり）　彰神父

京　都

黙　想　会　案　内　（宇治カルメル会）

（2005年1月から12月まで　）

聖書深読　（土曜日午後５時集合/日曜日午後４時解散）

０５／　３月１２日～１３日　　奥村一郎神父
　　６月１８日～１９日　　カルメル会士
　　１１月１９日～２０日　　カルメル会士

＊日帰り深読　（日曜日午前１０時～午後４時）

４月２４日　　新井延和神父
９月１１日　　カルメル会士
１２月１１日　　カルメル会士

＊ミニ深読　（火曜日午後２時～４時）

０５／２月　８日　　深読スタッフ
５月１０日　　深読スタッフ
７月　５日　　深読スタッフ
１０月１８日　　深読スタッフ

一般のための黙想

６日間の黙想　０５／　４月２９日（金）夕～５月５日朝　　福田正範神父
　　１２月３０日（金）夕～１月５日朝　　カルメル会士

青年男女黙想会（午前１０時～午後５時）

０５／　４月１７日（日）・・・・・カルメル会士・カルメル宣教会
　　１１月　６日（日）・・・・・カルメル会士・カルメル宣教会

水曜一般黙想会（午前１０時～午後４時まで）

２月１６日　聖書の祈り・・・・・・・・・新井延和神父
３月１６日　復　　活・・・・・・・・・・福田正範神父
４月２０日　日本の神学・・・・・・・・・奥村一郎神父
５月１８日　聖霊の賜物・・・・・・・・・長岡幸一神父
６月１５日　イエスのみ心・・・・・・・・カルメル会士
７月１３日　カルメルの祈り・・・・・・・カルメル会士
９月１４日　エディット　シュタイン・・アロイジオ神父
１０月１９日　神との親しさ・・・・・・・カルメル会士
１１月１６日　聖性への招き・・・・・・・Sr. ベアトリス

京　都

１２月１４日　　十字架の聖ヨハネ・・・・・カルメル会士

四旬節黙想（午後５時～午後４時）

０５／２月１２日（土）～１３日（日）・・・・・・福田正範神父

待降節黙想（午後５時～午後４時）

０５／１２月３日（土）～　４日（日）・・・・・・カルメル会士

聖テレーズの黙想（午後５時～午後４時）

０５／　９月３０日（金）～１０月１日（土）・・・伊従信子氏

奉献生活者のための黙想会（午後５時集合/午前９時解散）

０５／　７月２１日（木）～　７月３０日（土）・・・カルメル会士

８月　４日（木）～　８月１３日（土）・・・カルメル会士

８月１７日（水）～　８月２６日（金）・・・カルメル会士

１０月　２日（日）～１０月１１日（火）・・・カルメル会士

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
TEL　0774-32-7016　FAX　0774-32-7457

名古屋

「立ちとまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一日静修～（2005）

この会は現代の忙しい社会の中にあって、また都会の中にあって、神さまとの静かなひと時を過ごすために企画しました。イエス様は「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ28:20)といわれました。
共にいるイエス様とのひとときを、都会の真中で過ごしてみてはいかがでしょうか。
若者の召命、仕事の刷新、家庭生活の充実、老後のプランなどについて、
イエス様の言葉からヒントをいただきましょう。カルメル・ファミリーがお手伝いします。

第2回　2月11日(金)「カルメル会と御聖体」　松田浩一神父
第3回　3月21日(月)「主の晩餐への道」　松田浩一神父
第4回　4月26日(火)「ミサとわたしたちの召命」　松田浩一神父
第5回　5月24日(火)「御聖体と聖母マリア」　中川博道神父
第6回　6月28日(火)「聖マタイに聴く（2）」　松田浩一神父
第7回　7月18日(月)「生 け る 水」　九里 彰神父
第8回　9月27日(火)「十字架と教会の秘跡」　松田浩一神父
第9回　10月18日(火)「主の食卓のグローバリゼーション」　福田正範神父
第10回11月23日(水)「主は皆さんと共に」　松田浩一神父

＊ 時間 いずれもAM10:00～PM4:00
＊ 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線、日比野駅下車2番出口徒歩5分
（駐車場は利用できません）
＊持ってくるもの　聖書・筆記用具・ロザリオ・昼食の弁当
＊ 定員　約15名　＊費用 1,000円

プログラム 10:00 祈り
10:45 講話 1
12:00～12:45 昼食
12:45～ ゆるしの秘跡または短い面接
13:30～講話 2
14:45～ミサ
15:30～茶話会

また空いている時間にゆるしの秘跡、短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前まで必着のこと。なお、日比野教会で葬儀などある場合は中止となりますので、ご了承ください。

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 TEL052-671-1003 FAX052-671-1825
カルメル会日比野修道院 一日静修係(担当松田浩一神父)

聖書深読センターのご案内

１　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。
２　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

３　京　都

2.	2月12日（土）	新井延和神父
3.	3月12日（土）	一場　修神父
4.	4月　2日（土）	パトリック・オヘール神父
5.	5月21日（土）	奥村　一郎神父
6.	6月　4日（土）	奥村　豊神父
7.	7月　9日（土）	奥村　豊神父
8.	9月17日（土）	奥村　一郎神父
9.	10月15日（土）	奥村　豊神父
10.	11月　5日（土）	一場　修神父
11.	12月10日（土）	パトリック・オヘール神父

場　所：河原町カトリック会館６階又は７階
費　用：各回 2,500 円（昼食代を含む）
時　間：午前１０時～午後４時　　持参品：聖書・筆記用具・ノート

申し込み・問い合わせ　***（お申し込みは、各回３日前までに）***

〒604-8006　京都市中京区河原町通三条上ル
河原町カトリック会館内　聖書委員会
ＴＥＬ：075-211-3484　　ＦＡＸ：075-211-3910

４　名古屋

第１回　4月9日（土）　日比野カトリック教会　中川博道神父
第２回　5月28日（土）～29日（日）　宇治カルメル黙想の家　奥村一郎神父
第３回　9月17日（土）　日比野カトリック教会　中川博道神父
第４回　10月29日（土）～30日（日）　宇治カルメル黙想の家　奥村神父

＊ 毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
＊　原則として、定員 21 名とし、申し込みはファックス、葉書でお願いします。
＊　コースは深読法を集中的に行う１日コースと、全行程を行う１泊２日コースがあります。

＊　対象は信徒、未信徒の別を問いません。
キリストの教えに関心のある方でしたらどなたでもご参加下さい。
連絡先：〒465-0058　名古屋市名東区貴船3-2115　小林 厚
TEL/FAX　052-701-3685

5　横　浜

一日コース

月　　日	場　所	指導司祭
3月3日（木）	同　上	未　定
7月13日（水）	同　上	九里彰師
12月7日（水）	同　上	九里彰師

＊　ザビエルセンター・・横浜市中区滝之上
＊　時　　間　　10時～16時

一泊二日コース

月　　日	場　所	指導司祭
5月14（土） 15日（日）	聖母の園黙想の家	新井延和師
10月	未　定	中川博道師

＊　時　間　　14日13時～15日16時
＊　10月は未定です

連絡責任者　　蜜本昌俊　　TEL＆FAX　045-621-5838

お知らせ

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち２箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。

費用：６ヶ月 17,900 円（４、７、10、１月に納入）　継続の場合は 15,950 円

講師：九里彰師（奇数月）　新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2　有光信子さんのグループ

参加者は「素読表」（B5 あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはいないので、コメントや解読はない。

費用：１回 300 円　　年 10 回 3,000 円

送り先：〒663-8033　西宮市高木東町 31-20-504　有光信子

ＴＥＬ／ＦＡＸ　0798-67-8132

3　ミニ深読

グループで２、３時間かけて聖書深読法の一部分を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはＳｒベアトリス指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局　Ｓｒベアトリスまでご連絡下さい。

◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父　　事務局長：新井延和神父　　連絡先：Ｓｒベアトリス

ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543

Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

２００５年
カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：祈ることの意味

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩５分）
世田谷区上野毛２－１４－２５　カルメル修道会(TEL 03-3704-2171)

日時：下記の各土曜日　午後２時半開始（講話の後ミサがあります）

２月１２日（土）　九里彰（カルメル会司祭）
「現代における祈りの意味」
２月１９日（土）　菊地達也（神田外語大学専任講師）
「イスラームの祈りとはどういうものか」
２月２６日（土）　奥村一郎（カルメル会司祭）
「私はどう祈ってきたか」
３月５日（土）　三橋健（國學院大學神道文化学部教授）
「神道の祈りが現代に問いかけるもの」
３月１２日（土）　中山真理（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
「私はどう祈っているか」

【外部講師の紹介】

菊地達也

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。イスラーム思想史研究者。
概説書シリーズ、マリーズ・リズン著「イスラーム」の翻訳者。

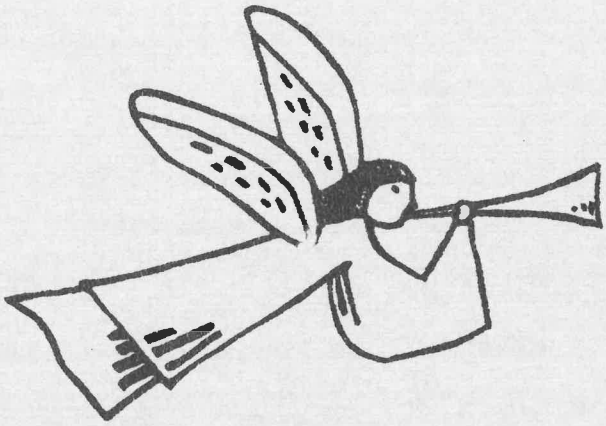
三橋健

國學院大学大学院博士課程修了。神道学博士。「国内神名帳の研究」論考編・資料編、「日本人と福の神」、「わが家の宗教　神道」、「わが家の守り神」、など多数の著書がある。

中山真理

ノートルダム・ド・ヴィの会員。カトリック福音センター（京都教区）勤務。

諸所の企画案内



ＣＷＣ（キリスト者婦人の集い）

リーゼンフーバー師講座

真命山霊性交流センター

三位一体の聖体宣教女会

マリアの御心会

ノートルダム・ド・ヴィ

聖心会黙想の家

心のいほり

諸所の企画紹介

＊　ＣＷＣ　（キリスト者婦人の集い）　講師：九里　彰　神父（カルメル会）
２００５．
会場：真生会館第一会議室
テーマ：教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡
女性の尊厳と使命についてお話しします。
日程：　１／１８（火）．（了）　　３／２２（火）．
時間：午前１０：３０～１２：００
４月以降は決まり次第本誌にてお知らせします。

＊　リーゼンフーバー講座・集い・研究会の　案内

キリスト教入門講座　金曜日１８時４５分～２０時３０分　聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール。どなたでも聖書に基づきキリスト教の基本テーマを致します。

キリスト教理解講座：毎月第一・第二火曜日１８時４０分～２０時３０分　聖イグナチオ教会アルペホール。キリスト教の基礎知識のある方。（２年間コース）信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心テーマを探求

聖書研究会：木曜日１２時４０分～１３時２５分上智大学７号館３１６号研究室、学生のどなたでも。新約聖書を１章づつ読んで話し合います

座禅会：　月曜日　17時20分～20時10分　＊　木曜日18時20分～20時30分
どなたでもどうぞ。初心者歓迎、遅刻、不定期の参加可。

接心　：　２００５．２／２６．（土)8:30 ～27日（日）16時　上石神井（5400）
５／２９．　(土)13:～30日（日）16時　宝塚市
７／３１．　(土)17:30～8/6(金）13時

黙　想：毎月第２．第４火曜日18:45 － 20:00：　イグナチオ聖マリア聖堂
水曜日 18:00～18:30 ：　上智大学内クルトゥルハイム一階右小聖堂　どなたでも

祈りの集い：下記土曜日 13:30～16:00　場　所：S.J.ハウス第５会議室
講話、黙想、ミサがあります。
＊２００５．２／１９．　３／１９

会社帰りの黙想：毎月第２．第４火曜日　１８：４５～２０：００
聖イグナチオ教会マリア聖堂（中聖堂）

＊　以上、問い合わせ・連絡先　：クラウス・リーゼンフーバー神父
〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス
直通電話 03-3238-5124 、 5111(伝言）、FAX,03-3238-5056

真命山の霊性

自然　神はすべてを作り、人の手に委ねられた

陽の昇るところから陽の沈むところまで　**祈り**

静けさ　沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を分かつ　**交わり**

865-0133　熊本県玉名郡菊水町蜻浦 1391-7
☎ 0968-85-3100; fax 0968-85-3186
e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

祈りの集い（毎月第二木曜日）
10:00 時～15:00 時

年間テーマ：ご聖体の秘義を深めて

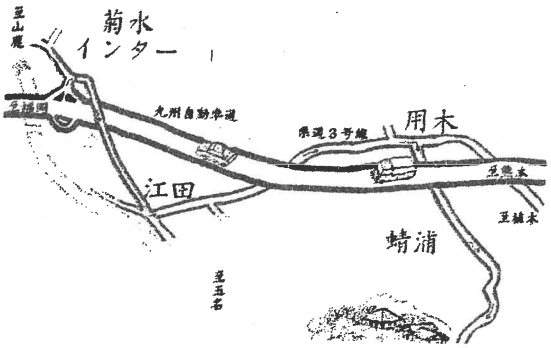
1月	13日	ご語聖体と受肉の神秘(了)
2月	10日	ご聖体とキリストの隠れた生活
3月	10日	ご聖体とキリストの受難
4月	14日	ご聖体とキリストの復活
5月	12日	ご聖体と聖霊降臨
6月	9日	ご聖体は一致の秘儀
7月	14日	ご聖体は永遠の生命の宴
9月	22日	ご聖体・神の愛の啓示
10月	13日	ご聖体は過越の秘蹟
11月	10日	ご8聖体は神の契約の秘儀
12月	8日	ご聖体は教会と世界の完成

指導：　フランコ神父
　　シスターマリア

研修会

テーマ：　諸宗教対話とは

日時：2005年5月13日(金)午後～15日(日)昼



＊　三位一体の聖体宣教女会　東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会：２００４年～２００５年

「聖書で祈る」：　指導：雨宮　慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

２００５．２月２６日（土）５：３０～２７（日）４：００

祈りの集い：神が下さる私の道　指導：星野正道師（司祭）

対象：男女青年信徒

２００５．２月８日（土）１０：００～４：００

黙想会：指導：星野正道師　（司祭）　＊対象：一般信徒（お弁当持参）

２００５．２月４日（金）１０：００～４：００

＊＊＊＊＊＊＊

キリスト教講座　カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日　10:00am ～11:30am

十字架の使徒職の集い　　＊対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第１グループ　　毎月第２金曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

第２グループ　　毎月第１木曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

両グループ＊司祭のために聖体礼拝を捧げます（1:30Pm～200Pm)

＊マリアの御心会

場　所：〒160-0012　東京都新宿区南元町６－２

ＪＲ信濃町駅下車徒歩２分

問い合わせ・申し込み：TLE.03-3351-0297　：FAX.03-3353-8089

E-mail midorif@jpc.apc-org

「来て・見なさい」　結婚・修道生活・独身生活を選定したい方。

２００５年度

２／２０（日）わたしの内に、巣くう社会の歪み　　下川雅嗣師

３／２０（日）毎日の生活の中に神を探す　　加藤信也師

すべての人のための祈りの集い

いのちの泉へ

－　キリスト者としての成長をめざして　－

2005年

2月19日（土）　砂漠の旅　四旬節を迎えて

スタッフ

伊従信子・片山はるひ　・　ノートルダム・ド・ヴィ会員

参加費200円　午後2時より　講話・祈り・分かち合い

午後5時半　ミサ（参加自由です）

今後の予定

3月19日(土)	十字架からの光	エディット・シュタインと共に
4月23日(土)	弱さから信頼へ	リジューの聖テレーズと共に
5月21日(土)	かかわりの神秘	三位一体
6月11日(土)	愛にゆだねて	リジューの聖テレーズと共に

お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4－32－35

TEL(03)3594－2247 FAX(03)3594－2254

e-mail ndv-jp@r2.dion.ne.jp

聖心会裾野修道院　ヴィラ・フジ（黙想の家）

〒411－1126　静岡県裾野市桃園198

TEL: 055-992-2120　FAX:055-992-2165

聖書による個人指導黙想会

2005年1月26日（水）－2月4日（金）（了）

ヘルパー：松本秀友師（京都教区）、3rs.　吹田真佐子、長谷川和子

申込先：〒108－0072　東京都港区白金4－11－1

聖心会レターレ修道院　Sr.吹田　真佐子

Tel:03-3446-1270　Fax:03-3441-0454

〒455－0872　名古屋師港区西蟹田1833

聖心会名古屋修道院　Sr. 長谷川　和子

Tel:052-302-4385　Fax: 052-309-1670

一般黙想会

テーマ：「自分探し」（2回とも参加できる方）

講師：近藤雅広神父（心のともしび運動）

① 2004年11月1日（月）午後1時より
11月3日（水）午後2時まで　（了）

② 2005年4月14日（木）午後1時より
4月16日（土）午後2時まで

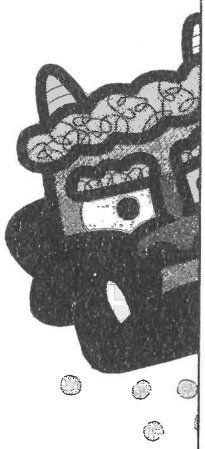
参考：「私は誰ですか」（近藤雅広著　天使院刊）にもとづく講話形式の黙想会

申込先：Sr．長谷川　和子　（上記の連絡先）

＊　『心のいほり』
内観瞑想センター』代表　藤原直達神父　（大阪教区司祭）
〒５７２－０００１　大阪府寝屋川成田東町３－２７
TEL/FAX ０７２－８０２－５０２６　携帯　０９０－２４０１－９３７４
活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。
希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。
電話では取り次いでおりません。

２００５年度

P1	05·02·07(月)2時から — 02·13(日)2時まで	6泊7日	兵庫·宝塚売布
B1	05·02·20(日)2時から — 02·26(土)2時まで	6泊7日	札幌厚別ベネディクト
F2	05·03·06(日)2時から — 03·12(土)2時まで	6泊7日	横浜·戸塚
P2	05·04·03(日)2時から — 04·09(土)2時まで	6泊7日	兵庫·宝塚売布
R1	05·04·10(日)2時から — 04·16(土)2時まで	6泊7日	京都·竜安寺
M1	05·05·23(月)2時から — 05·29(日)2時まで	6泊7日	盛岡·白百合
F3	05·06·06(月)2時から — 06·12(日)2時まで	6泊7日	横浜·戸塚
F4	05·07·04(月)2時から — 07·10(日)2時まで	6泊7日	横浜·戸塚
P3	05·08·14(日)2時から — 08·20(土)2時まで	6泊7日	兵庫·宝塚売布
F5	05·09·05(月)2時から — 09·11(日)2時まで	6泊7日	横浜·戸塚
P4	05·11·27(日)2時から — 12·03(土)2時まで	6泊7日	兵庫·宝塚売布
F6	05·12·11(日)2時から — 12·17(土)2時まで	6泊7日	横浜·戸塚



お　知　ら　せ

＊　**E-mail の投稿**も受けつけます。
seminary@carmel-monastery.jp

＊　**「読者の声」の欄**を設けます。日頃感じていること、本誌に対する感想などをお寄せ下さい。郵送、ファックス、e-mail 等で。

＊　**「霊性センターニュース」への献金**の窓口が変わりました。
郵便番号口座：００１１０－４－２９７２５０
加入者名：カルメル霊性センターニュース
通信欄に「霊性センターニュース」への献金とご記入ください。
振込用紙が必要な方は、ご請求下さい。お送りいたします。

編集後記

私事にわたるが、年明け早々、私のすぐ上の兄がこの世を去った。享年５７歳。くも膜下出血による突然の死であった。危篤の知らせを受けた時、私は８日間の黙想指導中であった。何とか一命を取りとめてほしいと神に願ったが、翌日の夜、あっけなく、意識も戻らずに息を引き取った。このような時がやがて来るであろうと覚悟はしていたが、少しばかり早かった。

兄は音楽家であった。小学一年の初めに自分から望んでヴァイオリンを習い始め、小学三年には音楽家になることを決意していた。付け足しのように一緒にヴァイオリンを習い始めた私とは大違い、大変な努力家であった。ピアノやその他の勉強も小学時代から始めていたが、自分からさまざまな大人の本（楽典・作曲・音楽史・伝記等々）を借りたり買ったりして、絶えず勉強していた。

彼のライフワークは、「ゆりね音楽会」という小さな音楽会の活動であった。前身の音楽会を含めれば、二十年余にわたって、お金にも地位にも結びつかない演奏活動を続けたことになる。馬鹿と言うしか他はない。名声や富に執着するこの世的な価値観をきっぱり拒否したその姿は、まさに修道的であり、「音楽道」というのがふさわしいようにも思われた。（もっとも現実の兄は、苦行僧のようではなく、人生を楽しむ柔らかな心を持った自由人であったが……）

学生時代、私は彼とよく二重奏をした（私はヴァイオリンのみ、彼はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、ピアノ）。その時、よく耳にした言葉に「何も聞こえない」というのがあった。有名なホールで有名な人の演奏を聞いて帰ってくると、「何も聞こえない」と言うのである。最初は耳が悪くなったのかと心配したが、そうではなかった。話しているうちに、その音に「心」が無いという意味であることが分かった。

彼は、大ホールで高いお金を払い、身構えて聞く音楽会を好まなかった。日常生活の中で、「生きた音」を通して、ざっくばらんに作曲家・演奏家と聴衆の「心」が一つとなる時空間を求めた。それは、彼の夢だったのだろう。人の心が通い合う、それぞれが自分自身でありながら一つとなってゆく、音楽を媒介にした「心の共同体」、それを彼は求めていたのだろう。

（Ｐ．九里（くのり））

投稿についてのお願い

投稿くださるときには、次のようにしていただけると幸いです。

＊ **締め切り**　毎月１０日まで

＊ **原稿サイズ**：B5　左右の余白：最低１５mm

＊ 「心の泉」のコーナーについては、
随想、こぼれ話、書評等。「断想」、「陽あたり」等、小題をつけて。

＊ 「諸所の企画」のコーナーについては、
①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。

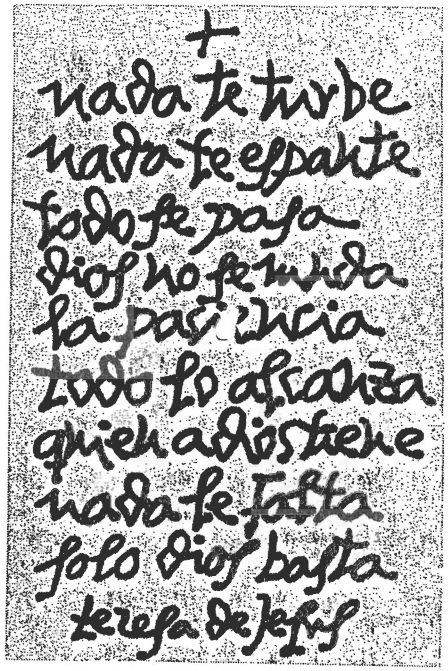
＊ 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただくことがあります。また紙面の都合上、全体を打ち直し、詰めさせていただくこともあります。あらかじめご了承ください。

＊ 寄稿連絡は、九里（くのり）　彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093　世田谷区上野毛 2-14-25　カルメル会修道院
Tel (03) 3704-2171　Fax (03) 3704-1764

「霊性センターニュース」をご希望の方は、
下記まで、郵送ご希望の月数分×220 円を現金で送ってください。

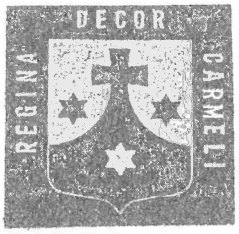
佐々木茂子　〒 230-0074　横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11
Tel (045) 575-5722



（テレジアの筆跡）

何ものにも心乱されず
何をも怖れるな
　すべては過ぎ去る
神のみ変わらず
耐え忍ぶとき
　すべてをかちえる
神に生きる人には
　欠けるものはなし
神のみにて足りる

イエズスのテレジア


REGINA
DECOR
CARMELI